



彼女の表情、それは静謐な心の反映であり、  
荒々しい部分においても変わることは無かった。  
今自分がどんな演奏をしているかを、自分自身  
で完全に把握しているという自信に溢れている。  
これは若い演奏家には稀な資質であろう。

(フォートワース・ウィークリー紙/アメリカ)

彼女は、ピアニストとしてすでに成熟しており、  
優れた音楽的才能、高い感性を持っている。彼女  
が弾いたショパンのワルツは、もはやコンクールの  
演奏というより彼女自身の演奏会のそれのよう  
な自信が感じられた。音楽的描写は整理され、  
芸術的な調和があった。

(ポーランド・ラジオ)

## 坂本 真由美 (ピアノ) Mayumi Sakamoto

神奈川県生まれ。4歳よりピアノを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学卒業。卒業時に同声会賞ならびに読売新人賞を受賞。財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生としてドイツ・ハノーファー音楽演劇大学ソリスト科を卒業。ドイツ国家演奏家資格を取得。同大学で講師を務めた後、2016年度より、東京藝術大学音楽学部ピアノ科講師。

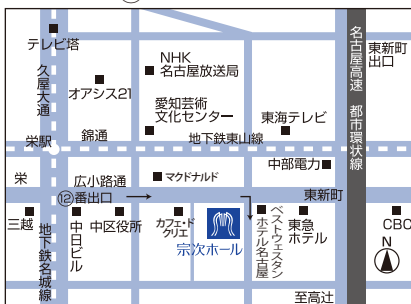
2004年にグリーク国際ピアノコンクールにて第1位、およびオスロ大賞受賞。2011年にはケルン国際音楽コンクールでも第1位並びに特別賞を受賞。ほか、ヴァン・クライバーン国際コンクールや、チャイコフスキー国際コンクール等、欧米各地のコンクールにて上位入賞を含む優れた成績を収めている。

これまでに日本にとどまらず世界各国でコンサートや音楽祭、オーケストラにソリストとして招聘され、テレビ、ラジオにも出演を重ねている。2010年、横浜市招待国際ピアノ演奏会に出演。2011~12年、WDR交響楽団(旧ケルン放送響)と共演し、その模様は西ドイツ放送で取り上げられた。ライフワークとしてグリークの作品に取り組み、2013年ゲッティンゲン響とグリークのピアノ協奏曲を協演・レコーディング。2014年にはシャルヴェンカのピアノ協奏曲をフランクフルト・ブランデンブルク州立管と協演するなど、知られざる作曲家・作品の発掘にも積極的に力を注いでいる。また、ヴィルヘルム・ケンプ文化財団より招聘を受けイタリア・ポジターノにてベトーヴェン特別集中解釈講座を受講するなど、作品研究にも重点を置いている。

2015年、デビューCD「坂本真由美 モーツァルトピアノ協奏曲第20番&21番」(協演:WDR響、指揮:ニクラス・ウィレン)をリリース。

これまでに、ピアノをアイナー・ステーン=ノックレベルク、ベルント・ゲツケ、アレキサンダー・イエンナー、ビクター・ローゼンバウム、角野裕、角野怜子、北川暁子の各氏、フォルテピアノを小倉貴久子氏、室内楽をマルクス・ベッカー氏に師事。

■交通アクセス  
地下鉄栄駅(12) 番出口より東へ徒歩4分



  
**宗次ホール**  
Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008  
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716  
E-mail info@munetsuguhall.com  
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター  
営業時間:10:00~18:00  
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

**宗次フレンズ 会員募集中!!**

宗次ホールは  
会員登録していただいた方に毎月無料で  
新作チラシをご自宅にお届けします。

**会員登録・年会費 無料**

詳しくは、宗次ホール(052-265-1715)までお問合せ下さい。